

【第5回】習志野市制施行70周年記念事業実行委員会 議事要旨

1 開催日時 令和6年7月8日(月)午前10時30分～正午

2 開催場所 習志野市庁舎3階 特別会議室

3 出席者

【構成員】	市長【会長】	宮本 泰介	習志野市議会議長【副会長】	佐々木 秀一
	副市長	遠藤 良宣	教育長	小熊 隆
	企業管理者	市川 隆幸	習志野市社会福祉協議会会長	欠席
	習志野商工会議所会頭	芦澤 直太郎	習志野市農業委員会会長	三代川 彦博
	習志野市芸術文化協会会長	中谷 時男	習志野市スポーツ協会会長	欠席
	習志野市連合町会連絡協議会会長	鈴木 とし江	習志野市小・中学校長会会長	宮崎 晶子
【事務局】	総務部長	竹田 佳司	総務部次長	吉岡 治
	総務課長	中野 幸子	総務課管理係長	小嶋 佳苗
	総務課主任主事	林 優樹		

4 議題

第1 会議の公開について

第2 会議録の作成等

第3 会議録署名委員の指名

第4 審議

(1) 業者からの事業提案について

第5 報告

(1) 船橋競馬における冠事業について

第6 その他(事務連絡等)

(1) 次回の会議日程について

(2) 本会議の情報の取扱いについて

5 会議資料 別添のとおり

6 議事内容

日程第1 会議の公開について

会議は要綱の規定により、原則公開となっているため公開すること、ただし、内容により公開・非公開の判断が必要となった際は、その都度諮ることで承認された。

日程第2 会議録の作成等

会議録については要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審議事項、会議内容及び発言委員名を記載した上で、市ホームページ及び市役所グランドフロアの情報公開コーナーにおいて、本会議における審議内容が正式に決定後に公開することで承認された。

日程第3 会議録署名委員の指名

会長から市川委員が指名された。

日程第4 審議

(1) 業者からの提案について【資料1】

事務局より説明後、以下のとおり質疑応答があった。なお、詳細の決定については、会長及び副会長へ一任された。

【事務局(中野)】 70周年のメイン事業となる記念事業については、4月に行われた実行委員会後、各委員の意見や企画準備委員会の意見をもとに、心に残る、未来につながる事業を事務局にて検討していたところである。

そのような中で、先日、事務局に対し、事業者より新たな提案があったため、説明する。

資料1「習志野市制施行70周年記念花火大会のご提案」は、事業者からの提案書である。提案事業者は「ファイヤーワークス株式会社」で、花火大会を総合的に運営する会社となる。花火大会の実施については、当初より本実行委員会でも意見のあった事業ではあるが、実施費用が高額になることや、多くの市職員の動員が必要になることなど、様々な理由により、断念したところである。

しかしながら、今回、それらの課題が解決された内容で本事業者から提案があった。

本提案は、花火大会の運営における、警察等関係機関との調整及び各種申請をはじめ、当日の警備に係る人員の確保、会場設営、チケット販売など、準備から運営に至るまで、全てを事業者が行うものである。

花火大会に係る必要経費は、有料観覧席や事業者からの協賛金などで賄う仕組みとなっている。一方で、協賛金の性質から、ある程度、興行的な部分が生じると想定しているが、このような仕組みから市からの人的、金銭的補助は原則として不要となるとのことである。

現在、事業者から提案されている開催場所は、これまでも市民まつり事務局が主催して花火大会を開催してきた茜浜である。

日にちの候補は、11月23日(土)と24日(日)の2日間開催となっている。

時期については、11月が一年の中でも比較的、天候が安定しており、風向きも北から吹きやすいため、煙や燃えカスが海側へ流れるなど、条件として非常に良いと伺っている。

なお、実施予定日まで日数がないことが懸念点ではあるが、事業者によると、これまでの実績から、4か月あれば実現可能ということである。

花火打ち上げ場所の詳細について、花火の打ち上げは海上の台船から行うことで、火災リスクを減らし、観覧席を多く設けることができる提案となっている。

また、当日は、来場者が会場へ一度に押し寄せないように昼間からイベント等を実施することで、人流抑制なども行うという提案であった。

以上のとおり、本事業者の提案を受け、実行委員会が後援する事業として、協議を進めてよろしいか提案するものである。

【三代川委員】 市の負担がないことについては、きちんと精査できているのか。

【事務局(中野)】 事業者は有料観覧席と協賛事業者からの収益により運営をする。また、協賛事業者の確保や資機材のレンタルの観点により、2日間の開催にすることで費用効率が良くなるとのことである。

そのようなことも含め、市の費用負担はないものとして確認をしている。

本実行委員会や市は主催としてではなく、あくまで「後援」という形態での携わり方となる。場所と70周年記念の冠名のみ提供するイメージである。

【三代川委員】 この事業者は実績があるのか。

【事務局(竹田)】 本事業者は岩手県で設立されているが、もともとは震災復興としてまちを盛り上げるために設立された企業である。2020年に三陸地方で1回目が開催されているが、その後の2021年に会社が設立された。若い会社ではあるが、花火大会の実施回数は徐々に増えている現実がある。

事業者からの提案として、まず、立地として習志野市茜浜は非常に魅力的な地域であると伺っている。都心であることや、費用面で一番大きいとされる警備のしやすさを理由として挙げていた。

また、運営に関する手法の一つとして、中止になった他市の花火玉を購入することで安く仕入れることができるなどのノウハウがあることも伺えた。

事務局としても実現可能性を検討するにあたり、事業者と何度か協議をしたが、市の費用負担や人的負担は必要ないことを確認している。ただし、70周年という中で、市からセレモニー用ステージを作りたいといった要望をする場合には経費は必要になると思うが、それほど大きな費用は発生しないと考えている。

また、警察等の関係機関との協議については、最初は帯同して紹介をしてほしい旨の要望はあった。

実際に事業者が運営した花火大会を確認してはいないが、急遽の提案であるため、ご了承いただきたい。

【三代川委員】 天候も安定した時期であることなども含め、個人的には賛成している。

【遠藤委員】 過去に開催された花火大会で、各市の負担はあったのか。また、各花火大会の来場者数はどのくらいなのか。

【事務局(中野)】 過去に開催された花火大会で各市から補助金等をもたらしたことはないと同

ている。各花火大会の参加者数については確認ができていない。

【遠藤委員】 市の金銭的負担がなく、市民が喜ぶイベントができることは喜ばしいことであると感じた。

【鈴木委員】 習志野市の花火大会の開催には、これまでも市民まつり事務局として携わったが、市が携わることで関係機関との協議が円滑になったと感じている。後援という形は賛成であるが、市が関与しないということについてはありえないと思う。70周年の冠を付けるのであれば、70周年記念事業として堂々と開催した方がよい。その方が、習志野市が歴史をつなげているという市長の思いが市民に伝わると思う。

【事務局(竹田)】 現時点での事業者側からの案として、資料9ページには台船から花火を打ち上げることや有料観覧エリア・無料観覧エリアが示されている。無料観覧エリアの中には、茜浜運動公園や駐車場があるが、この部分はグルメゾーンやイベントゾーンといった使用が想定されている。

資料10ページには交通規制計画が示されているが、この点については警察等を含めて協議を行い実現可能性の精度を上げていく段階である。

実施形態については、主催・共催・後援という形について事業者からは指定はなく、これから協議をしていく。花火大会の事務局と運営は事業者に引き受けていただく予定である。

今回、非常に準備期間が短い中で事務局が各行政機関と協議をしていく中で、どうしても物理的に整わず、花火の打ち上げができないということが生じる可能性もゼロとは言えないため、まずは事業者とこれからも前向きに協議をするという了解を本日の実行委員会でいただきたい。

そして、協議を進める中で、実施形態についてもしっかりと精査していきたいと考えている。

2日間の開催理由としては、費用対効果の面から2日間の開催で提案されている。土日の2日間とも昼からイベントを始めて3時頃には人が集まりだすような内容を予定していると同っている。

【芦澤委員】 もう少し判断材料が欲しいということが率直な意見である。

今日の会議におけるメインの論点は、実行委員会としてどのような形で携わるかということだが、1事業者が提案してきたから全てお任せするというのでは済まないと思う。場所の借用や関係機関への取り次ぎは当然行うことであるが、市としての責任なり負担はないにせよ、結果的に市民が喜んでくれる花火大会になるのか不安である。

市内の様々な事業者に対して人的・費用面での負担があることは間違いないと思うが、負担が嫌だということではなく、一緒にやると決めたからには成功のために、協力してあげたいという気持ちがある。習志野市外の事業者が開催した花火大会に見学して楽しませてもらうというスタンスでは絶対成功には繋がらないと思う。単なる市の職員や財政負担だけではなく、様々な形で市内の市民や事業者に対して協力を伴う話である。

これまで、地域との調整などの経験や茜浜での花火の打ち上げの実績がある市民まつり実行委員会・商工会議所が検討した結果、やはり習志野では難しいという結論にならざるをえなかったものが、大きな経験があるとはいえず外部の方が簡単にできるとは考えにくいと思っている。

一方で、本事業者の実績を見ると、新型コロナの蔓延時など、現在以上に制約がある中で、三陸などで花火大会を始めており、相当本気の人達であるとは感じた。

また、その他の花火大会もそれぞれの地域で、かなり伝統的に長く続く、定評のある大会を運営していることから、実績はあると感じた。都心部での実績も「よこすか開国花火大会」しかないが、商工会議所ルートで情報を得ることも可能であると思う。

【事務局(竹田)】 経費削減という部分で言えば、全国的に花火業者から花火玉をいかに安くいかに多く仕入れるかというノウハウについて、かなり培ってきたものがあると感じた。また、2日間開催にすることで経費面での実現性を出すために工夫をしている。

【芦澤委員】 入場者数は2日間で5万人ということか。その人数が入るのか。

【鈴木委員】 今回は台船打ち上げにすることで、前回打ち上げた場所が無料観覧エリアになるということだと思う。有料観覧エリアも作り方によっては8,000人～1万人は入ると思う。

ただし、台船で打ち上げるとサッポロビール園から丸見えにはなると思う。

花火玉の費用というよりは、台船の費用が大きい。

【三代川委員】 市外の人に見られてしまうのは確かに寂しい気もするが、どこからでも花火は見える可能性があり、事業者の実績からある程度の対応はしていただけると考えるとあまり気にしなくても良いと思う。

最終的には、どの時点で花火大会の開催について決定しなければならないのかという点が気になる。

【鈴木委員】 資料を見ると2024年から2028年まで、今後も毎年花火大会の開催をしていく旨が記載されているが、事業者としてはこのように考えているのか。

【事務局(竹田)】 そのとおりである。やはり初年度が非常に事務手続きなど人的な負担が大きい。大会が継続することによって事業者の負担も軽減されることや、来場者も認知度が進むことによって、チケットが売れるようになるというメリットもあるため、できれば継続して開催したいと伺っている。

【芦澤委員】 資料には継続して大会を開催することにより、補助金額が徐々に減少していくと記載しているがこれはどのようなことか。

【事務局(中野)】 他市に提案する際もこのような資料で提案するそうだが、過去の大会において自治体から補助金をもらった実績はないとのことであった。

また、今回の習志野市においては2日間開催することで、運営資金は賄えるという試算ができたため、今回は補助金なしで開催すると記載がされている。

【佐々木副会長】 花火大会は、5年や10年に1回、相当苦労して手作りで実施してきた。単発で花火玉などを購入すると金額も高くなると思う。また、人員もボランティアにお願いしながら集めていた。このように苦労しながら実施してきたイベントを事業者によって全部用意してくれるという、こんな良い話があるのかと驚いている。

あとは実現可能性についてであるが、協賛会社のアプローチなど、様々なノウハウもある事業者でもあるため、私個人としては活用したほうが良いと感じた。

また、毎年開催してくれて習志野市の名物になるようであれば、明るい話であると思った。

【事務局(竹田)】 三代川委員からのご質問の決定期限であるが、いつから公表し、チケットの販売を行うのがポイントになってくる。このチケットの販売については9月頃から販売を行いたいと事業者からは要望されている。販売期間は1か月半で、良い席から埋まっていくとのことであるため、広報などでしっかりと周知した中での販売を想定している。

広報を考えると、1か月ぐらい前にはもう少し精度を高めたものを作り上げていかないといけないと考えている。本日、協議を進めることについて了承をいただければ、今月中には具体的に内容を詰めていきたい。

そして、7月中や8月中には市でも周知を行っていききたいと考えている。

事業者との役割分担については今後協定のようなものを締結する予定であるが、事業者からは基本的には金銭面と人員面の負担は不要と伺っているが、PR活動や関係機関への紹介は要望されているため、しっかり進めていきたい。

【三代川委員】 今の説明からすると、本日中に開催するか開催しないか、どちらかをはっきりと決めたほうが良いと思うが。

【宮本会長】 市としては場所を貸すかどうかだけのスタンスである。他市でも民間が公園等でイベントを行っている。同様に、習志野市の公園が民間の開催する花火大会の会場に選ばれたというものである。

【芦澤委員】 先ほど非常に慎重に判断したいと申し上げたが、皆さんの意見を伺っていると開催について前向きな判断ができると意見が傾いているところである。

ただし、70周年というタイミングでなければ、市が責任を負わないという形態でのかかわり方で良いと思うが、今回は70周年のタイミングであるために市民から見ると記念事業の目玉と捉えると思う。

もし、事故か何かが発生したときには、「共催」や「後援」という名目に関わらず、習志野市の責任になるというリスクを払っているということは十分認識した方が良い。

【事務局(竹田)】 基本的には冠をつけて実施をしていただくのであれば、当然市民に喜んでいただくものにしなければいけない。間違っても事件・事故になってはならないため、事業者とはしっかりと協議を進めていきたい。

- 【宮本会長】 冠事業としての要件は当然あるため、その要件を遵守いただく。
- 【佐々木副会長】 習志野市が70周年事業として、昼間のイベントで「誰でもコンサート」など、できる事業があれば積極的に要望して欲しい。店舗でも習志野ソーセージや人参ジュースの販売など、地域の方には参画して欲しい。
- 【事務局(中野)】 事業者からの提案の中に地域性を出したいというものがあった。後援という形態のため、どこまで市の希望等が通るかわからないが、なるべく習志野市を中心に市内事業者にも参加していただく形で、商工会議所も交えて協議したい。
- 【鈴木委員】 70周年は令和7年3月31日までであるため日付はこだわらずに調整して欲しい。
- 【宮本会長(司会)】 花火大会の日付は11月23日(土)、24日(日)、当実行委員会は後援するものとして、当日の詳細な内容等については、会長・副会長に一任というような形で良いか。

～一同異議なし～

日程第5 報告

(1) 船橋競馬における冠事業について

事務局より以下のとおり説明を行った。

- 【事務局(中野)】 本市は、千葉県競馬組合の出資者となっており、毎年7月には船橋競馬場において、「習志野きらっとスプリント」が開催されている。
- このたび、70周年を記念して、7月18日(木)に当競馬場にて開催される12レースのうち、9レースに冠名が付き、1レースは「習志野市制施行70周年記念レース」として開催されることになったため報告する。

日程第6 その他

(1) 次回の会議日程について

事務局よりタイムカプセル開封式及び次回会議の日程について報告があった。

会議録署名 会長 _____

会議録署名 委員 _____